



GAPMIL
GLOBAL ALLIANCE FOR PARTNERSHIPS
ON MEDIA AND INFORMATION LITERACY

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

UNITWIN Cooperation Programme on
Media and Information Literacy and Intercultural Dialogue

2020 年度法政大学ユネスコ・メディア情報リテラシーと異文化間対話プログラム企画 Part2

グローバル MIL ウィーク 2020

第 1 回日韓メディア情報リテラシー交流フォーラム

東アジアにおけるメディア情報リテラシー：対話と協働を始めよう

Media Information Literacy in East Asian Contexts: Initiating dialogues and collaborations

主催 法政大学図書館司書課程

共催 韓国コミュニティ・メディア財団

FCT メディア・リテラシー研究所

アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター

協力 基礎教育保障学会

日本 NIE 学会

インターネット・メディア協会

日時 11 月 28 日 (土) 14:00-16:30

開催方法 オンライン (Zoom) 先着 80 名

講演

「韓国におけるメディア情報リテラシーの現状と諸問題」

Current conditions and issues for media and information literacy in South Korea

シン・テソプ理事長 (韓国コミュニティ・メディア財団)

ユネスコの協力のもと、日韓のメディア情報リテラシー(MIL)団体がお互いの活動の交流と協働をめざして、毎年フォーラムを開催することになりました。今年はその第一回になります。本来は東京で開催する予定でしたが、コロナ禍の影響により、オンライン開催となりました。

現在、韓国ではメディア教育活性化法の制定に向けた動きが加速しています。第一回交流フォーラムは、韓国コミュニティ・メディア財団のシン・テソプ理事長を招いて、法案と韓国のメディア情報リテラシー運動の現状をテーマとした講演を上映します。その後、日本側の各団体の紹介とディスカッションを行います。

シン理事長の講演と日本側の団体紹介は字幕付きのビデオを上映します。その後のディスカッションは逐次通訳で行います。また、今回のフォーラム開催に際して、ユネスコのアルトン・グリズィール MIL プログラム担当官よりビデオ・メッセージを上映します。

参加申込方法 次の URL または右の QR コードを使って参加を申し込んでください。

先着 80 名に参加用 Zoom の URL アドレスを前日までにお送りいたします。

<https://forms.gle/bv915J1HogKnWfpW6>



タイムテーブル

総合司会 村上郷子（法政大学図書館司書課程）

通訳 呉世蓮（早稲田大学）

14:00～14:05 主催者挨拶 坂本旬（法政大学）

14:05～14:15 ユネスコ挨拶（ビデオ・日韓字幕付）

アルトン・グリズィール（ユネスコ）

14:15～14:20 シン・テソプ理事長の紹介 村上郷子

14:20～15:00 講演（ビデオ・日本語字幕付）

「韓国におけるメディア情報リテラシーの現状と諸問題」

シン・テソプ理事長（韓国コミュニティ・メディア財団）

15:00～15:05 休憩

15:05～15:35 日本の各団体活動紹介（ビデオ・韓国語字幕付）

- ・基礎教育保障学会 上杉孝實（基礎教育保障学元会長）
- ・日本NIE学会 土屋武志（愛知教育大）
- ・インターネットメディア協会 下村健一（メディアリテラシー担当理事）
- ・アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター
村上郷子（法政大学）
- ・FCTメディア・リテラシー研究所 西村寿子（FCT理事長）

15:35～16:25 パネル・ディスカッション

コーディネーター 坂本旬

パネリスト

下村健一（白鷗大学）、二田貴広（奈良女子大学附属中学）、西村寿子（FCT）、村上郷子（法政大学）

シン・テソプ（コミュニティ・メディア財団）

16:25～16:30 終わりの挨拶

※法政大学は、ユネスコ・メディア情報リテラシーと異文化間対話大学ネットワークネットワーク（UNITWIN MILID）のメンバーです。

2020年9月6日に開催されたSDGsとMILフォーラムへのご挨拶 シン・テソプ（韓国コミュニティ・メディア財団理事長）

こんにちは。韓国コミュニティメディア財団理事長のシン・テソプです。本日のフォーラムの開催のお祝いを申し上げます。共催団体の日本基礎教育保障学会と日本NIE学会そして関係者の皆様に感謝を申し上げます。私は韓国のメディア情報リテラシーについて、そして日韓両国の協力への希望について短く話したいと思います。



韓国政府と国民は、「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」というSDGs第4目標に共感しています。そして、学校の基礎教育と生涯教育を通してメディアと情報に対する学生や市民のリテラシー能力を行動にまで高めるために、多くのメディア情報リテラシー関連の政府・非政府機関と組織ががんばっています。

私が属しているコミュニティ・メディア財団は、市民・学生向けのリテラシー教育、市民のメディア参加の活性化、障がい者のメディアに対する権利保障などメディア情報リテラシー事業を行う放送通信委員会傘下の政府機関の一つです。韓国では、この他にも、学校教育でメディア情報リテラシーを担当する教育省、文化・芸術・マスコミ領域でリテラシーの向上を支援する文化体育部、情報技術と情報リテラシーを普及させる科学技術部など複数の政府省庁や傘下の公共機関がそれぞれに関連したメディア情報リテラシーの課題を実行中です。

また、全国メディアセンター協議会所属の40箇所のメディアセンター、韓国メディア教育学会などの学術団体、全国メディアリテラシー教師協会、クリーンなメディアのための教師の会、全国または地域単位の各種メディア講師・保護者会など、多様な非政府組織が活動しています。韓国におけるメディア情報リテラシーは、1970年代の言論の自由と民主主義を求める市民運動の一環として始まりました。軍事政権のいいなりになった主流メディアを批判する教育が現れ、これまで韓国社会の民主化とともに、1990年代後半に本格化した韓国社会の急速な情報化と社会制度を形成しながら発展してきました。

韓国のメディア情報リテラシーは、これまで量的・質的に大きな成長を遂げてきました。しかし、越えなければならない山がたくさんあります。一方では、情報操作、ヘイトスピーチ、オンライン・ポルノ、インフォデミックがあります。他方では、オンラインと対面授業を組み合わせた教育システムづくり、メディア教育基本法の制定、バラバラなメディア情報リテラシーの体系化と効率化などの難題と向かい合っています。多くの国々がこれらと同様の課題を抱えていると思われます。

メディア情報リテラシーは、すでに国境を越えた国際的な問題でもあります。私は日本と韓国が互いに理解と協力しあってアジアへと広げ、世界に進むことを夢見ています。今回のフォーラムが日本の基礎教育とメディア情報リテラシーの優れた成果と発展につながることを願っています。そして、日韓両国のメディア情報リテラシーの理解と協力が広がり、日韓両国の互惠関係へと発展していく上で、メディア情報リテラシーが重要な踏み台となることをお祈り致します。ありがとうございました。